

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済	経済経営	夜・通信		34 (24)	10	44	13	
	国際文化ビジネス・観光	夜・通信		20 (10)	24	44	13	
リハビリテーション	理学療法	夜・通信		0	30	30	13	
		夜・通信						
(備考) 学部等共通科目の()内は、他学科科目の履修可能な単位数であり内数です。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/workexperience_teacher.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/the_board_of_trustees.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	日本聖公会 神戸教区 主教	2022. 4. 1 ~ 2024. 3. 31	キリスト教教育担 当（建学の理念継 承）
非常勤	(有) サンスリービル代 表取締役	2022. 4. 5 ~ 2024. 3. 31	学院経営担当
非常勤	リンク 総合法律事務所 所属弁護士	2022. 4. 5 ~ 2024. 3. 31	コンプライアンス 担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの作成方法に関するFDを専任教員・非常勤講師を対象に実施している。その際、ガイドライン(シラバスの作成方法)により「授業概要」「到達目標」「授業計画」「事前事後学修」「成績評価方法・基準」「受講心得」の説明を行っている。欠席者には、ガイドライン(シラバスの作成方法)を送付している。また、実務経験を持つ担当教員には実務経験の有無について、「どのような実務経験によりどのような教育を行うか」を明記するよう説明している。また、シラバスは3月末に完成し、4月1日に大学ホームページにより公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/subject/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学の学士課程における単位認定にあたっては、各学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえた当該授業科目の位置づけとして相応しい到達目標を設定し、これに照らして学生の学修到達度を評価している。 評価については、授業科目の担当教員があらかじめ設定した試験、レポートなどの成果物や、受講態度、授業への貢献度などに拠って行っている。担当教員は、授業の内容および形態を考慮したうえで、学生の履修に際して学修到達度を適切に評価するために相応しい評価方法・基準を年度のはじめにシラバスで学生に明示し、その内容に基づいて厳格な成績評価を実施し単位を授与している。複数で担当する必修科目については、担当者間で協議し、評価が偏らないように配慮している。 また、成績発表後に学生が自身の成績評価に関して担当教員に照会できる制度を設けることで、成績評価の透明性を確保している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA (グレードポイントアベレージ) は、一定期間において履修した各授業科目の成績に係る GP に当該授業科目の単位数を乗じて得た数値の総和を履修した各授業科目の単位数の総和で除して得た数値をいう。ただし、小数点第 3 位以下は切り捨てるものとする。

授業科目の成績評価基準は、100～90 点を「S」、89～80 点を「A」、79～70 点を「B」、69～60 点を「C」、59 点以下を「D」(不合格) とする 5 段階評価とし、単位認定のために学生が達成すべき水準を 60 点以上としている。また、未受験の場合は「F」の無評価とする。

また、学生の成績の相対的な位置を確認するために、学部ごとに学生の成績の分布状況を把握し、その資料を作成している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/gpa_credit_degree/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学部の教育目標を踏まえ、以下の知識や能力・技能を備え、各学部が定める卒業要件を満たした者に対し、学士の学位を授与する。

○経済学部 (経済経営学科)

(1) 学力 (基礎学力と応用力)

1. 豊かな社会生活を支える総合的な教養を修得している
2. 経済経営の基礎および専門知識を修得している
3. 経済経営の理論と応用を活用し、社会で生じる事象を的確に判断し対応できる

(2) 実行力 (リーダーシップ力と革新力)

1. 他者と協調して社会が抱える課題を解決できる
2. 多様な価値観をもつ人々を理解し、合意形成を図ることができる
3. 新たな活動の場を切り拓くことができる

(3) 発信力 (コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力)

1. 多様な知見を活用し、独創的な提案ができる
2. 経済経営の見地から自分の考えを発言し伝達できる
3. グローバル経済の視点から発想し、多様な人々と共感できる

○経済学部（国際文化ビジネス・観光学科）

(1) 学力（基礎学力と応用力）

1. 豊かな社会生活を支える総合的な教養を修得している
2. 経済学・国際文化ビジネス・観光学の基礎および専門知識を修得している
3. 国際文化ビジネス・観光学の理論や応用を活用し、社会で生じる事象を的確に判断し対応できる

(2) 実行力（リーダーシップ力と革新力）

1. 他者と協調して社会が抱える課題解決できる
2. 多様な価値観をもつ人々を理解し、合意形成が図ることができる
3. 新たな活動の場を切り拓くことができる

(2) 発信力（コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力）

1. 多様な知見を活用し、独創的な提案ができる
2. 国際文化ビジネス・観光学の見地から自分の考えを提案することができる
3. グローバル経済の視点から発想し、多様な人々と共感できる

○リハビリテーション学部（理学療法学科）

(1) 人間力（生命の尊重と豊かな人間性）

1. 生命の尊厳を理解し、医療専門職としての倫理観を修得している
2. 全人的な医療を行うための豊かな人間性と社会性を有している
3. 対象者や社会のニーズに応じ意欲的かつ柔軟に対応ができる

(2) 学力（基礎学力と応用力）

1. 豊かな教養を備え、生涯にわたり学ぶ姿勢を身につけている
2. 医療専門職として専門的な基礎知識および技術を修得している
3. 医療専門職としての観点から、社会で生じる事象を的確に判断し対応できる

(3) 協働力（コミュニケーション能力と協調力）

1. チーム医療を理解して多職種と協働し、その中核として他分野との連携・調整を図ることができる
2. すべての人が参画できる社会を実現するため、保健・医療・福祉にわたる提案ができる
3. 国際的感性と視野を持ち、支援活動などの国際協力に貢献する能力を持っている

<p>上記の卒業認定に関する方針や学生の取得単位数を踏まえて、卒業認定を行っている。</p> <p>なお、学生は学部所定の教育課程を履修し、経済学部では 124 単位以上、リハビリテーション学部では 128 単位以上を修得しなければならない。</p> <p>また、卒業判定の手順として「教員による成績判定、Web 入力」「成績処理」「教務委員会審議」「教授会（卒業判定会議）」を経て決定する。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_****taisyakutaisyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_****sikinsyusi.pdf
財産目録	https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_****zaimumokuroku.pdf
事業報告書	https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_****jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_****kansahoukoku.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 学校法人八代学院 中期計画)	対象年度: 2022→2026)
公表方法: https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a16_long_range_plan.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-39_2015jikohyoka.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/jihee

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/educational_policy/) (概要) 経済学部の目的は、建学の精神に基づき、物中心から人間中心へと主軸を移した経済学を学問的基盤に据え、経済学の理論と実践力を備え、グローバルな視野と豊かな教養、人間性を持った有能な人材を育成することとする。 ○経済経営学科 経済経営学科の目的は、経済学・経営学に関する知識を修得し、現代の複雑な経済社会においてグローバルな視点を持って活躍できる人材を育成することとする。 ○国際文化ビジネス・観光学科 国際文化ビジネス・観光学科の目的は、国や地域の文化と結合したより良き人間生活を実現するビジネスについて学び、グローバルな視点を持って現代社会の発展に貢献できる人材を育成することとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/) (概要) 本学部の教育目標を踏まえ、以下の知識や能力・技能を備え、各学部が定める卒業要件を満たした者に対し、学士の学位を授与する。 ○経済経営学科 (1) 学力（基礎学力と応用力） 1. 豊かな社会生活を支える総合的な教養を修得している 2. 経済経営の基礎および専門知識を修得している 3. 経済経営の理論と応用を活用し、社会で生じる事象を的確に判断し対応できる (2) 実行力（リーダーシップ力と革新力） 1. 他者と協調して社会が抱える課題を解決できる 2. 多様な価値観をもつ人々を理解し、合意形成を図ることができる 3. 新たな活動の場を切り拓くことができる (3) 発信力（コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力） 1. 多様な知見を活用し、独創的な提案ができる 2. 経済経営の見地から自分の考えを発言し伝達できる 3. グローバル経済の視点から発想し、多様な人々と共感できる ○国際文化ビジネス・観光学科 (1) 学力（基礎学力と応用力） 1. 豊かな社会生活を支える総合的な教養を修得している

2. 経済学・国際文化ビジネス・観光学の基礎および専門知識を修得している
3. 国際文化ビジネス・観光学の理論や応用を活用し、社会で生じる事象を的確に判断し対応できる

(2) 実行力（リーダーシップ力と革新力）

1. 他者と協調して社会が抱える課題解決できる
2. 多様な価値観をもつ人々を理解し、合意形成が図ることができる
3. 新たな活動の場を切り拓くことができる

(2) 発信力（コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力）

1. 多様な知見を活用し、独創的な提案ができる
2. 国際文化ビジネス・観光学の見地から自分の考えを提案することができる
3. グローバル経済の視点から発想し、多様な人々と共感できる

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/curriculum_policy/）

（概要）

経済学部では、教養教育と専門教育の履修を通じて、「学力」、「実行力」、「発信力」を修得させるというディプロマ・ポリシーを掲げています。とりわけ、少人数教育である演習科目や共通基盤科目、学科科目を通じ、きめの細かい教育を重視しています。このような方針に従って、学科別・学年別に履修すべき教育内容を以下の通りに定めます。

○経済経営学科

1 教育内容

- ・1～2年次に、幅広い教養を身につける「教養科目」と経済学の基礎を履修させます。
- ・1年次では、高校教育から大学教育へ円滑に移行できるように、「基礎演習」を履修させます。そこでは、大学での学び方と考える力を身につけます。
- ・1年次に、経済学の考え方や基礎知識を修得できるように、「基礎経済」を履修させます。そこでは、経済学の面白さやそれを学ぶ意義について学習します。
- ・2年次は、経済学・経営学の専門基礎知識を広く修得できるように、「共通基盤科目」を履修させます。そこでは、当該分野を専門としない学生でも他の専門基礎を体系だって学習できます。
- ・入門科目・共通基盤科目について「選択必修制度」が定められ、広い分野の科目を体系だって学習できるように、入門科目、共通基盤科目をそれぞれ4群（経済・経営・国際文化ビジネス・観光）の中から、所定の単位以上を履修させます。
- ・入門科目・共通基盤科目を修めた2年次後期以降の学生は、経済学・経営学の専門分野を重点的に修得できるように、「専門科目」を履修させます。そこでは、当該分野の専門知識を深めるために体系立った学習ができます。
- ・3年次から3つのコースを設定し「専門演習」を履修させます。専門演習では特定のテーマで指導を受け、学生自身による主体的学習に基づく報告発表と学生相互の討論を通じ、創造性やプレゼンテーション能力を身につけます。

・4年次の専門演習では活動成果を「卒業論文」として提出できます。

・キャリア教育科目を1年次から3年次まで設置します。1年次では、将来の仕事への意識付けと就職を希望する業界について、2年次では、アーリーインターンシップを通して企業での働き方を、3年次では、就職を想定したインターンシップを通して仕事の取り組み姿勢を学びます。

・履修コースモデルを用意し、コースツリーを明示することによって系統的な履修が可能になります。一定の条件を満たした学生を当該コースの修了者と認定します。

2 教育方法

(1)演習科目を中心に、少人数の共通教育科目や学科科目、語学科目では、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等のアクティブラーニング（AL）を積極的に実施します。

(2)教室での学修に加えて、地域社会や地域企業と連携し、自ら問題を発見し、問題解決する能力を身につけるプロジェクトベースドラーニング（PBL）を実施します。

(3)今現在社会生活で生じている問題や現象、例えば、SDGs、IT、AI、防災・減災等に関して、学外の企業や専門家を招へいし、生きた経済学を学習します。

(4)すべての授業にグローバルな視点を取り入れます。

3 学修成績評価

(1)学期末試験だけでなく、その他の学習成果（平常の授業における取り組み、レポート、フィールドワークへの参加、プレゼンテーション能力などを含む多様な能力）を合わせて評価をします。

(2)課題（試験・レポート等）に対するフィードバックを行います。

(3)学生が上記カリキュラムを履修していく上で、1年間に履修科目として登録できる単位数の上限を48単位に定めます。

※なお、各科目の学習成果の評価方法は、シラバスにおいて科目ごとに明示されています。

○国際文化ビジネス・観光学科

1 教育内容

・1～2年次に、幅広い教養を身につける「教養科目」と経済学の基礎を履修させます。

・1年次では、高校教育から大学教育へ円滑に移行できるように、「基礎演習」を履修させます。ここでは、大学での学び方と基本的な考える方法を学習します。

・1年次に、経済学の考え方や基礎知識を修得できるように、「基礎経済」を履修させます。ここでは、経済学の面白さやそれを学ぶ意義について学習します。

・2年次は、国際文化ビジネスや観光学の専門基礎知識を広く修得できるように、「共通基盤科目」を履修させます。ここでは、当該分野を専門としない学生でも他の専門基礎を体系だって学習することができます。

・入門科目・共通基盤科目について「選択必修制度」が定められ、広い分野の科目を体系だって学習できるように、入門科目、共通基盤科目をそれぞれ4群（経済・経営・国際文化ビジネス・観光）の中から、所定の単位以上を履修させます。

・入門科目・共通基盤科目を修めた2年次後期以降の学生は、国際文化ビジネスや観光学の専門分野を重点的に修得できるように、「専門科目」を履修させます。そこでは、当該分野の専門知識を深めるために体系だった学習ができます。

・3年次から2つのコースを設定し「専門演習」を履修させます。専門演習では特定のテーマで指導を受け、学生自身による主体的学習に基づく報告発表と学生相互の討論を通じ、創造性やプレゼンテーション能力を身につけます。

・4年次の専門演習では、活動成果を「卒業論文」として提出します。

・キャリア教育科目を1年次から3年次まで設置します。1年次では、将来の仕事への意識付けと就職を希望する業界について、2年次では、アーリーインターンシップを通して企業での働き方を、3年次では、就職を想定したインターンシップを通して仕事の取り組み姿勢を学びます。

・履修コースモデルを用意し、コースツリーを明示することによって系統的な履修が可能になります。また、一定の条件を満たした学生を当該コースの修了者と認定します。

2 教育方法

(1) 演習科目を中心に、少人数の共通教育科目や学科科目、語学科目では、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等のアクティブラーニング（AL）を積極的に実施します。

(2) 教室での学修に加えて、地域社会や地域企業と連携し、自ら問題を発見し、問題解決する能力を身につけるプロジェクトベースドラーニング（PBL）を実施します。

(3) 今現在社会生活で生じている問題や現象、例えば、SDGs、IT、AI、防災・減災等に関して、学外の企業や専門家を招へいし、生きた経済学を学習します。

(4) すべての授業にグローバルな視点を取り入れます。

3 学修成績評価

(1) 学期末試験だけでなく、その他の学習成果（平常の授業における取り組み、レポート、フィールドワークへの参加、プレゼンテーション能力などを含む多様な能力）を合わせて評価をします。

(2) 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックを行います。

(3) 学生が上記カリキュラムを履修していく上で、1年間に履修科目として登録できる単位数の上限を48単位に定めます。

※なお、各科目の学習成果の評価方法は、シラバスにおいて科目ごとに明示されていません。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/admission_policy/）

（概要）

本学は建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」を基本理念としたうえで、「生き抜く力」を備えた人材を育成することを教育目標とします。この教育目標に共感し、本学で学ぼうとする高い意欲を持つ人、将来グローバル社会に貢献する明確な意思を持つ人、そして国、地域を問わず異なる価値観をもつ人々と共感し協働できる人の入学を歓迎します。経済学部においてはディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標に基づき、経済学を基礎とする多様な知識をもち、グローバルな視野と人間性を備え、競争社会で「生き抜く力」を身につけ社会に貢献できる人材となりうる人の入学を望みます。

<p>学部等名 リハビリテーション学部</p>
<p>教育研究上の目的 (https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/educational_policy/)</p>
<p>(概要) リハビリテーション学部理学療法学科の目的は、建学の精神に基づき、リハビリテーション医療の原点である「全人的復権」の基に「人間の保健・福祉」を追求する学問的基盤に立って、特にリハビリテーションの中核的担い手である、高い専門的知識と技術、及び豊かな教養と人間性を持つ有能な理学療法士を養成することとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/)</p>
<p>(概要) リハビリテーション学部理学療法学科は建学の精神を基本理念として、リハビリテーションの中核的な担い手となる高い専門知識と、技術および豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成することを教育目標とします。 この教育目標を踏まえて編成された学部・学科の教育課程を通じて、本学部が定める卒業要件を満たし、知識や技能を備えた学生に対して学士の学位を授与します。</p> <p>(1) 人間力（生命の尊重と豊かな人間性）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊厳を理解し、医療専門職としての倫理観を修得している 2. 全人的な医療を行うための豊かな人間性と社会性を有している 3. 対象者や社会のニーズに応じ意欲的かつ柔軟に対応ができる <p>(2) 学力（基礎学力と応用力）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養を備え、生涯にわたり学ぶ姿勢を身につけている 2. 医療専門職として専門的な基礎知識および技術を修得している 3. 医療専門職としての観点から、社会で生じる事象を的確に判断し対応できる <p>(3) 協働力（コミュニケーション能力と協調力）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療を理解して多職種と協働し、その中核として他分野との連携・調整を図ることができる 2. すべての人が参画できる社会を実現するため、保健・医療・福祉にわたる提案ができる 3. 国際的感性と視野を持ち、支援活動などの国際協力に貢献する能力を持っている
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/curriculum_policy/)</p>
<p>(概要) リハビリテーション学部理学療法学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「人間力」「学力」「協働力」を修得させるために、教養科目・専門基礎科目・専門科目を体系的に編成します。また学んだ知識を活かした資格を取得することを支援します。</p>

1 学年別教育内容

1 年次

・人文・社会・自然科学分野にわたる「教養科目」を履修させ、生命の尊厳を理解し豊かな人間性を持つ理学療法士となるための素地を涵養します。

・外国語科目、医学英語教育、海外語学研修、海外施設研修を通して、国際的な視野とコミュニケーション能力を培います。

・医療専門職に不可欠な「専門基礎科目」である「基礎医学」を1年次前期から配し、正常な人体の構造と機能および心身の発達について早期に修得させます。

・理学療法士の役割や仕事を理解するために、理学療法学概論演習（施設見学実習）を体験させます。

2 年次

・「基礎医学」科目について、実習を通して理解を深めます。

・疾病と障害の成り立ちおよびその回復過程について学ぶ「専門基礎科目」である「臨床医学」科目を設置します。

・「専門科目」である「評価学」・「治療学」など理学療法士の基盤となる学びを経て、臨床実習により検査・測定技術の修得を目指します。

・理学療法士の役割や仕事を理解するために、理学療法学概論演習（施設見学実習）を体験させます。

3 年次

・リハビリテーション科学の専門分化に対応した知識の獲得のために「専門科目」を配置します。

・これまでに学んだ知識と技能の統合を図るために臨床実習を実施します。

・保健・福祉など理学療法に関わる分野を俯瞰できる力を育みます。

4 年次

・実際の医療現場においてチームの一員として協働し、自律的に問題解決能力を身につけることのできる参加型実習を行います。

・授業や臨床実習で関心を抱いた科学的もしくは実践的課題について「卒業研究」で取り組み、論理的思考と創造的探究心を養います。

2 教育方法

(1)少人数学生間でのグループワークを積極的に取り入れ、専門的な学修指導とともに生活・進路に関する助言を行います。アクティブラーニング(AL)を中心とした教育方法を用い、知識の修得とともにコミュニケーション能力の向上、他者とのかかわりから生まれる共感力などを錬成します。

(2)接遇マナー講座・防災意識を高める競技会や研修会・学外でのボランティア活動等を行い医療専門職として不可欠な社会性を高めます。

(3)学外での臨床実習前に、実技試験・筆記試験を実施して知識の確認を行います。また実習後には、学内で報告会を行い、実習で得た知識を整理し、解決すべき自己課題を認識し、次のステップにつなげます。

(4)医療専門職としての土台となる基礎医学の修得については、模擬試験を通して到達度を計り、習熟度に応じて丹念に指導をします。また、4年次後期には理学療法士国家試験の合格に向け、集中的な対策プログラムを実施します。

3 学修成績評価

(1)学期末試験だけでなく、その他の学習成果（平常の授業における取り組み、レポート、フィールドワークへの参加、プレゼンテーション能力などを含む多様な能力）を合わせて評価をします。

(2)課題（試験・レポート等）に対するフィードバックを行い、学生の理解度の向上と知識の定着を図ります。

(3)学外での実習科目については、実習の評定のほか、学内での事前試験や報告会の内容などを総合的に評価します。

入学者の受入れに関する方針

(https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/admission_policy/)

(概要)

本学は建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」を基本理念としたうえで、「生き抜く力」を備えた人材を育成することを教育目標とします。この教育目標に共感し、本学で学ぼうとする高い意欲を持つ人、将来グローバル社会に貢献する明確な意思を持つ人、そして国、地域を問わず異なる価値観をもつ人々と共感し協働できる人の入学を歓迎します。リハビリテーション学部においてはディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標に基づき、リハビリテーションの中核的な担い手となる高い専門的知識と技術および、豊かな教養を修得しようとする高い意識と人間性を持つ有能な人材となりうる人の入学を望みます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/introduction/>

https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_faculty/

https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_office/

https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_yashiro/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
経済	—	20人	10人	4人	0人	0人	34人
リハビリテーション	—	7人	3人	4人	4人	0人	18人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		97人					97人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/economics/teacher/ https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/rehabilitation/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
大学の建学の精神・役割を実現するため、教員の質的向上・資質改善を目的として以下のFDを実施している。							
1) FD研修会を毎年度3～4回実施している。 対象は専任教職員。 各研修のテーマ：学生教育指導、大学ガバナンス、高等教育における質保証、高大連携等 講師は、外部講師（文部科学省高等教育局、他大学教員等）、または学内の教職員。 高大連携をテーマとする研修の際は、附属高校の教諭も参加する。							
2) 研究不正防止にかかる研修会を毎年度1回実施している。 対象は専任教員。 テーマは、研究論文不正防止、研究倫理・社会的責任の周知 講師は、担当副学長。							
3) 学生アンケートに基づく教員表彰を毎年度1回実施している。 対象は専任教員。 学生アンケートの高得点を得た授業（担当者）を抽出し、公開授業を行い、審査を経て教員表彰を行う。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済	300人	340人	113%	1200人	1489人	124%	—人	6人
リハビリテー ション	80人	75人	93%	320人	334人	104%	—人	0人
合計	380人	415人	109%	1520人	1823人	120%	—人	6人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済	336人 (100%)	31人 (9%)	217人 (65%)	88人 (26%)
リハビリテー ション	45人 (100%)	0人 (0%)	43人 (96%)	2人 (4%)
合計	381人 (100%)	31人 (8%)	260人 (68%)	90人 (24%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) https://www.kobe-kiu.ac.jp/career/economics_support/employment/ https://www.kobe-kiu.ac.jp/career/rehabilitation_support/employment/				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスの作成方法に関するFDを専任教員・非常勤講師を対象に実施している。その際、ガイドライン(シラバスの作成方法)により「授業概要」「到達目標」「授業計画」「事前事後学修」「成績評価方法・基準」「受講心得」の説明を行っている。また、担当教員における実務経験の有無について、「どのような実務経験によりどのような教育を行うか」を明記するよう説明している。</p> <p>また、シラバスは3月末に完成し、4月1日に大学ホームページにより公表されている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学の学士課程における単位認定にあたっては、各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた当該授業科目の位置づけとして相応しい到達目標を設定し、これに照らして学生の学修到達度を評価している。</p> <p>評価については、授業科目の担当教員が試験、レポートなどの成果物や、受講態度、授業への貢献度などに拠って行っている。担当教員は、授業の内容および形態を考慮したうえで、学修到達度を適切に評価するために相応しい評価方法・基準を年度のはじめにシラバスで学生に明示し、その内容に基づいて厳格な成績評価を実施している。複数で担当する必修科目については、担当者間で協議し、評価が偏らないように配慮されている。</p> <p>また、成績発表後に学生が自身の成績評価に関して担当教員に照会できる制度を設けることで、成績評価の透明性を確保するようにしている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済	経済経営	124 単位	有・無	48 単位
	国際文化 ビジネス・観光	124 単位	有・無	48 単位
リハビリテーション	理学療法	128 単位	有・無	48 単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/gpa_credit_degree/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/campus/ https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/access/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済	経済経営	770000 円	300000 円	207000 円	施設拡充費、設備維持費等
	国際文化 ビジネス・ 観光	770000 円	300000 円	207000 円	施設拡充費、設備維持費等
リハビリテーション	理学療法	1440000 円	300000 円	207000 円	施設拡充費、設備維持費等
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>○奨学金制度は、経済的理由により修学が困難な学生に一定の金額を貸与または給付することにより、学費・生活費の負担を軽減し、少しでも学業を継続しやすい環境をつくることを目的としている。奨学金には、大学の奨学金制度をはじめ、各地方公共団体・民間育英団体などがある。いずれの奨学金も、学力、人物、経済状況を考慮し選考する。外国人留学生を対象にした制度も用意している。</p> <p>1. 神戸国際大学奨学金 神戸国際大学の学則第 48 条に基づき、勉学意欲旺盛かつ成績優秀な学生で就学困難な者に奨学金を支給する。 採用人数は若干名とし、学業成績、保護者の収入状況、面接を審査して採用を決定する。 採用は当該年度とし、毎年募集をする。</p> <p>2. 神戸国際大学授業料減免 神戸国際大学の学則第 48 条に基づき、学生で災害等によって授業料の納付が困難な者に対し、減免をする。 減免を受けようとする者は、減免願に罹災証明書等を申請し、決定された場合は原則として災害発生時の次期授業料から半期・通年の各期納付額の全額又は半額とする。</p> <p>3. 在学生向けの緊急支援 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学生が負担するオンライン講義受講のための環境整備等の費用を軽減することを目的として保護者会および同窓会の協力により、在籍学生に 3 万円を給付する。</p> <p>4. 2020 年度前期学納金等の納入期限の延長 2020 年度前期の学納金等について、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により納入期限を 4 月 30 日から、5 月 31 日まで延長する。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>4 年間一貫したキャリア教育・支援を行うためキャリアセンターにて各種進路選択支援を実施している。 就職ガイダンスや筆記試験対策講座、面接対策講座等、年間を通じた講座の開催のほかインターンシップ参加支援を行っている。 またキャリアカウンセリング（就職・進路相談）においては、3 年、4 年次のゼミナールごとに担当キャリアカウンセラーを配置し、個別対応の形式により学生一人ひとりに対して細やかなカウンセリング・相談に応じている。各種求人管理や対象学生への求人情報のメール配信、履歴書の添削、面接試験に向けた指導・支援等により内定獲得・進路決定へと導いている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康維持・増進のために保健センターを設置している。身体の健康については学校医と看護師が、学校保健安全法に基づき健康診断および学内における突然の病気や怪我の応急処置を実施している。また、こころの健康については臨床心理士・公認心理士の資格のあるカウンセラーがカウンセリングを行っている。対話スペースも設置し、気楽に利用できるように配慮し、有意義な学生生活が送れるようあらゆる相談に対応している。 特に、新入生に対しては、アンケート調査を行い、新入生全員を対象に面接をして、早い時期に大学不適応学生を把握して支援するよう取り組んでいる。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/economics/teacher/>

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/rehabilitation/teacher/>